

新しい魅力発見 カヴァーの愉しみ

～世代とジャンルを超えて楽しむ名曲たち～

No.	曲名	補足	演奏者	媒体	発売年	時間
1	ゴット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ Got to Get You Into My Life	ビートルズ初の本格的なブラス・セクション導入曲。モータウンの影響を受けたアレンジでシャッフル・リズムに乗せたボールの力強いボーカルが印象的。サイケデリックな歌詞とファンファーレのようなホーンが融合し、アルバムの中でも異彩を放つ存在です。	ザ・ビートルズ	LP	1966	0:02:27
2		モーリス・ホワイトのプロデュースによる、グルーヴ感あふれるファンク・アレンジ。原曲の構造を活かしつつ、EW&Fらしい華やかなホーンとリズムセクションが炸裂。「最高のリメイク」と評されることもあり、原曲へのリスペクトと大胆な再構築が見事に融合しています。	アース・ウィンド・アンド・ファイアー	LP	1978	0:04:03
3	ミスター・タンブリンマン Mr. Tambourine Man	幻想的で象徴的な歌詞を、静かな弾き語りで紡ぐ原曲。タンブリンマンは現実逃避の象徴として描かれ、聴く者を詩的な旅へと誘います。	ボブ・ディラン	LP	1965	0:05:30
4		ディランの詩をポップに再構築したフォークロックの金字塔。煌びやかなギターと美しいコーラスが、夢想的な世界を明快に彩ります。	ザ・バーズ	LP	1965	0:02:29
5	青い影 A Whiter Shade of Pale	クラシック音楽とR&Bを融合させた荘厳なサウンドに、マシュー・フィッシャーのオルガンが幻想的な空気を漂わせる。ゲイリー・ブルックカーの憂いを帯びた歌声と、キース・リードの難解で詩的な歌詞が、失われた愛と記憶の深淵を描き出す。英国ロックの美学が凝縮された、時代を超える傑作です。	プロコル・ハルム	LP	1967	0:04:03
6		テキサスの風を感じさせるゆったりとしたカントリー・アレンジ。ギターの温もりと彼の語りかけるような歌声が、原曲の悲哀をより親密で人間的なものへと変換している。船上にいるような浮遊感と孤独感が漂い、人生の黄昏を静かに見つめるような解釈が光ります。	ウイリー・ネルソン	LP	1982	0:04:01
7	デスペラード Desperado	ドン・ヘンリーのハスキーなボーカルと、ストリングスを用いた荘厳なアレンジが印象的。イーグルスの中でも最も「歌の温もり」が感じられる一曲とされ、ライブではドラムセットを離れたドンがマイク前で熱唱する姿が象徴的です。	イーグルス	LP	1973	0:03:33
8		ピアノを中心としたシンプルな伴奏に乗せて、リンダの澄んだ歌声が「ならず者」に寄り添うように響きます。イーグルスがシングル化しなかったこの曲を、彼女が初めて世に広めたことで、後に多くのアーティストがカバーするきっかけとなりました。	リンダ・ロンシュタット	LP	1973	0:03:36
9	卒業写真	1975年発表のオリジナルは、静かなピアノと繊細な歌声が、過ぎ去った青春への郷愁を優しく包み込む。写真に残された記憶と今はもう会えない人への想いが交差し、聴く者の心に深く染み渡ります。	荒井由実	LP	1975	0:03:43
10		同年にリリースされたカバーは、山本潤子の透明感あるボーカルと服部克久のアレンジが、ユーミンの世界観をより柔らかく、親しみやすく昇華。卒業の切なさや希望が同居する、春の空気にぴったりの名演です。	ハイ・ファイ・セット	LP	1975	0:04:11
11	黄昏のビギン	水原弘の「黒い落葉」のB面として発表されたこの曲は、当初は注目されなかったものの、彼の低く艶のある声が夜の街の哀愁を見事に表現しています。永六輔の詩と中村八大の旋律が、昭和のネオンと雨の記憶を呼び起こすような情景を描きます。	水原弘	EP	1959	0:02:38
12		ちあきなおみは、服部隆之による流麗なストリングスアレンジとともに、原曲に深い情感と品格を加えました。彼女の歌声は、恋の記憶を静かにたどるような繊細さと、人生の哀しみを包み込むような温かさを持っています。	ちあきなおみ	CD	1991	0:04:13
13	タイム・アフター・タイム Time After Time	繊細な歌声と80年代らしいシンセサウンドが、恋人とのすれ違いや再会への願いを切なく描く。時を超えて寄り添う愛のかたちを、優しく包み込むように歌い上げたポップバラードの名曲です。	シンディ・ローパー	CD	1984	0:04:00
14		ミュート・トランペットが沈黙の中で語りかけるように響き、歌詞のない世界で深い感情を描く。ジャズ的な余白と即興が、孤独と再生の物語を静かに紡ぎ出す、晩年のマイルスを象徴する名演です。	マイルス・デイヴィス	CD	1985	0:03:38

No.	曲名	補足	演奏者	媒体	発売年	時間
15	時代	静かな語り口と力強いメッセージが交錯する原曲。人生の浮き沈みを「そんな時代もあったねと、いつか笑える日が来る」と歌い、聴く者に希望と癒しを与えます。フォーク調のアレンジとみゆき独特の語りが、時代を超えて響く普遍性を生み出しています。	中島みゆき	LP	1975	0:04:40
16		中島みゆきの詞をより柔らかく、包み込むような声で届けるカバー。彼女のクールで切ない歌唱が、原曲のメッセージに別の温度を与え、聴く人の記憶と感情に寄り添います。みゆき作品の表現者としての信頼も厚く、彼女の代表的なカバーのひとつです。	研ナオコ	LP	1976	0:03:45
17	京都慕情	アメリカ発のエレキバンドが奏でる「京都慕情」は、異国のサウンドでありながら日本の情緒を見事に表現。哀愁漂うメロディは、京都の静けさや移ろう季節の美しさを思わせ、インストゥルメンタルの可能性を広げた革新的なアレンジです。洋楽と和の融合が、昭和歌謡に新たな風を吹き込んだ瞬間でもあります。	ザ・ベンチャーズ	LP	1970	0:02:11
18		渚ゆう子の歌声は、しっとりとした情感と艶やかさを併せ持ち、聴く者の心に深く染み入ります。彼女の歌唱は、京都という土地の儚さや恋の切なさを、まるで絵巻物のように描き出します。和服姿の情景が浮かぶような、叙情的で美しい世界観が広がり、昭和歌謡の名曲として今も多くの人に愛されています。	渚ゆう子	EP	1970	0:02:31
19	オールウェイズ・オン・マイ・マインド	実はプレスリーもカバーであり、オリジナルはグウェン・マクレー。 別れた恋人への後悔と愛情を、エルヴィス特有の深く温かい声で綴る。ストリングスとピアノを中心としたアレンジが、彼の内面の痛みと誠実さを際立たせています。	エルヴィス・プレスリー	CD	1972	0:03:38
20	Always on My Mind	エルヴィス没後10年のトリビュート番組で披露されたカバーが好評を博し、シングル化。原曲の哀愁を保ちつつ、シンセサイザーとビートで再構築されたダンサブルなアレンジが、80年代らしい洗練とエネルギーを加えています。	ベット・ショップ・ボーイズ	CD	1987	0:03:54
21	エルサレム Jerusalem	イギリス人にとって「第2の国歌」と言われる愛唱歌。「ラスト・ナイト・オブ・ザ・プロムス」の後半に必ず登場する定番曲。「Rule, Britannia!」や「Pomp and Circumstance No.1（威風堂々）」と並んで、国民的な大合唱となります。	オペラ・ノース管弦楽団 (パリー作曲)	CD	1998	0:02:38
22		発表当時、イギリス国教会が「宗教曲をロックにするのは不適切」として放送を禁じたため、BBC ではオンエアされなかったという逸話がある。しかし後年では、ELP版「Jerusalem」はプログレ的解釈として高く評価され、イギリス・ロック史における「国民的賛歌の再定義」とも言われる存在に。	エマーソン・レイク & パーマー	LP	1973	0:02:44
23	上を向いて歩こう Sukiyaki	坂本九の「上を向いて歩こう」は、1961年に発表された日本のポップス史に残る名曲であり、世界的にも「Sukiyaki」の名で知られる唯一無二の存在です。シンプルながらも深いメロディラインと、坂本九の温かく包み込むような歌声が融合し、聴く人の心を優しく揺さぶります。	坂本九	LP	1961	0:03:05
24		坂本九の名曲を1987年にジャズ／ソウルの文脈で再解釈したジャズとソウルを自在に行き来するシンガー、マーリナ・ショウの珠玉のカバーです。彼女の「スキヤキ」は、原曲の哀愁を保ちつつも、よりスモーキーで官能的な質感を加えています。特に低音域の包容力と、語りかけるようなフレー징が印象的です。	マーリナ・ショウ	CD	1987	0:03:27
25	デイドリーム・ビリーバー	ジョン・スチュワート作詞・作曲によるオリジナルは、軽快なメロディに乗せて「夢見る若者」の甘く切ない恋心を描いたポップソング。明るくキャッチーなサウンドが、60年代アメリカの青春像を象徴しています。	モンキーズ	LP	1967	0:02:59
26	Daydream Believer	忌野清志郎率いる覆面バンドによるカバーは、日本語詞で再構築され、育ての母への感謝や喪失感を滲ませる深い情感が宿ります。「ずっと夢を見て 安心してた」というフレーズが、昭和の終わりの空気と重なり、普遍的な優しさを放ちます。	ザ・タイマーズ	CD	1989	0:04:03

合計 1:31:40